

福島県・岳温泉

お宿 花かんざし

O y a d o H a n a k a n z a s h i

〒964-0074

福島県二本松市岳温泉1-104

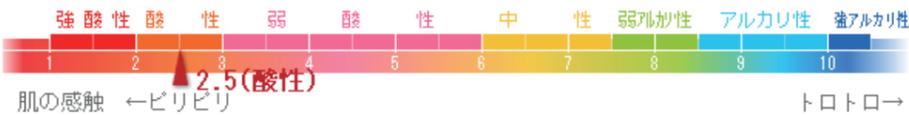
TEL：0243-24-2110



■ 宿データ

1泊2食料金	¥18,900～
1泊朝食料金	-
素泊り	-
一人泊	¥24,150～
宿泊時の貸切風呂料金	-
日帰り	¥8,400～ 温泉+個室休憩+昼食
日帰り貸切温泉	-

■ 水素イオン濃度 (pHペーパー)



一言コメント 皮膚病や切り傷などに最適な泉質。

■ 温泉成分表

湯の色 透明～白濁

溶存物質 (ガス性のものを除く成分①+②+③の合計) 632.3mg

泉温 56.7℃ pH値 2.5 (酸性)

湧出量 毎分 1,290 リットル (旅館組合全体量)

温泉の成分 (源泉 1kg 中に含有する分量)

陽イオン	シケラム	シハル	シハル%	陰イオン	シケラム	シハル	シハル%
ナトリウムイオン(Na ⁺)	14.0	0.61	7.30	フッ素イオン(F ⁻)	0.3	0.02	0.25
カリウムイオン(K ⁺)	6.4	0.16	1.91	塩素イオン(Cl ⁻)	2.5	0.07	0.87
マグネシウムイオン(Mg ²⁺)	9.5	0.78	9.33	臭素イオン(Br ⁻)	0.3	0.00	0.00
カルシウムイオン(Ca ²⁺)	36.2	1.81	21.65	硫酸水素イオン(HSO ₄ ⁻)	38.6	0.40	4.98
アルミニウムイオン(Al ³⁺)	15.5	1.72	20.57	リン酸水素二イオン(H ₂ PO ₄ ⁻)	0.4	0.00	0.00
マンガンイオン(Mn ²⁺)	0.5	0.02	0.24	硫酸イオン(SO ₄ ²⁻)	362.2	7.54	93.90
鉄(II)(Fe ²⁺)	1.1	0.04	0.48				
鉄(III)(Fe ³⁺)	0.2	0.01	0.12				
水素イオン(H ⁺)	3.2	3.17	37.92				
アンモニウムイオン(NH ₄ ⁺)	0.7	0.04	0.48				
計①	87.3	8.36	100.00	計②	404.3	8.03	100.00
非解離成分	シケラム	シモル	溶存物質総計	溶存ガス成分	シケラム	シモル	成分総計
メタケイ酸(H ₂ SiO ₃)	137.5	1.76	632.3	遊離二酸化炭素(CO ₂)	0.0	0.00	632.8
メタホウ酸(HBO ₂)	2.9	0.07		遊離硫化水素(H ₂ S)	0.5	0.01	
硫酸(H ₂ SO ₄)	0.3	0.00					
計③	140.7	1.83		計	0.5	0.01	

その他微量成分

総水銀:0.0005mg/kg未満	鉛:0.01mg/kg未満	カドミウム:0.005mg/kg未満	総クロム:0.02mg/kg未満
総ヒ素:0.042mg/kg			

宿よりデータを提供して頂きました。

この泉質ならではの浴用の適応症

慢性皮膚病

浴用の適応症

慢性皮膚病の他に、一般的適応症 (神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進)

浴用の禁忌症

皮膚、粘膜の過敏な人、とくに光線過敏症の人、高齢者の皮膚乾燥症、急性疾患、(とくに熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性の疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中(とくに初期と末期)

飲用の適応症

保健所の許可を取得していません

飲用の禁忌症

伝承による適応症

アトピー性皮膚炎

分析日

平成 21 年 7 月 3 日 (社団法人 泉央研究所)

温泉解説

単純酸性泉と絶品の料理を味わえる 大正ロマン漂う全8室の小さな湯宿

泉質名

単純酸性泉

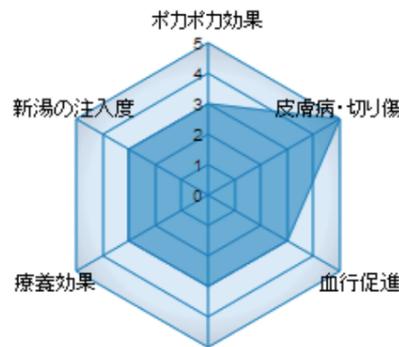
低張性 酸性 高温泉 (旧泉質名：酸性泉)

■ 源泉の利用状況

加水	加温	消毒	消毒	入浴剤
なし	なし	なし	なし	なし
○	○	○	○	○

※すべての湯舟は源泉 100%かけ流し

■ 温泉力 チャート (5段階評価)



◆美肌の湯度数 ※最高は4つ星 ★☆☆☆☆

★美肌の湯の4大条件(アルカリ性の温泉・硫黄泉・炭酸水素塩泉・硫酸塩泉)には、当てはまらないが、天然の保湿成分であるメタケイ酸が豊富に入っている。

◆こんな人に最適

皮膚病や、切り傷、水虫などにお悩みの方

アトピー性皮膚炎の方

◆温泉レポート (文・温泉&宿コンシェルジュ 大竹仁一)

岳温泉の旅館全てが、日本百名山に数えられる安達太良山と並びそびえる鉄山(てつざん)の南、くろがね小屋付近から湧き出る温泉を「引き湯」している。

その湯量は、毎分 1290 リットルもの湧出量を誇る。

そこからおよそ 8km、標高差 900 メートルの傾斜を生かして山肌を流れ、宿があるエリアまで運ばれる。

途中、管の中で源泉は、適度に湯もみされて、肌にやさしい柔らかな湯になって、各宿に配湯されるというわけだ。源泉湧出時は、70℃～80℃だったものが、「お宿 花かんざし」に到着する頃は 56℃ほどになり、さらに湯舟に入れる湯量を調節して、適温にしている。

岳温泉は、日本一源泉場所から遠い温泉地かもしれないが、泉質は非常に評判がいい。

一般的に、源泉地から近い方が、新鮮な温泉が味わえそうなものだが、酸性泉なので、劣化しにくいというデータもある。

心配な湯の鮮度も、入浴してみれば、そのフレッシュさが、すぐにお分かりいただけるはずだ。

泉質は、pH (ペーハー) 2.5 の「単純酸性泉」。

酸性泉とは、試験水 1kg 中、陽イオン成分の中の水素イオンが 1mg 以上含有しているもの。

日本特有の温泉とも言われ、特徴としては、殺菌効果が非常に高く、慢性皮膚病、特に水虫、切り傷などにいとされる。

さらに、白癬(はくせん)症、トリコモナス膣炎、疥癬(かいせん)等にも効果があるという。

ただし、もともとが刺激が強い温泉なので、皮膚が弱い人に向かない場合も多く、湯ただれを起こしやすい泉質である事も覚えておいていただきたい。

また、酸性泉は、アトピー性皮膚炎の黄色ブドウ球菌の殺菌にいいとされる。

実際に、アトピー性皮膚炎患者の炎症部位を調べると、黄色ブドウ球菌という、有害な細菌が多く存在していることがある。

黄色ブドウ球菌は酸性の環境では繁殖が抑えられ、中性～アルカリ性の環境下で増えやすい性質がある。

健康肌では皮膚表面が弱酸性であるのに対し、アトピー肌では弱酸性に戻す動きが弱い傾向とされる。

このように、アトピー性皮膚炎は、温泉療法によって改善される可能性が高く、特に酸性泉が効果的のようだ。しかし、同じ酸性の温泉でも、硫黄成分が多く含まれていると、その成分によって皮膚を乾燥させ、症状を悪化させる場合もあるので注意が必要。

ここ、岳温泉の「単純酸性泉」は、硫黄成分が少なく、アトピー性皮膚炎には最適と言えるだろう。

また、メタケイ酸は 137mg/kg と多く含んでいることも注目したい。

温泉の基準値が 50 mg/kg だから、実に 3 倍弱も含まれている。

これは、カラダをコーティングして温める作用があり、天然の保湿成分とも称される、

美肌を求める女性にとっては嬉しい泉質だろう。

一般的に酸性泉は、飲泉すると慢性消化器病に効くと言われているが、残念ながらこの宿では保健所の許可を取っていないようだ。

もし、飲用できるとしても、酸性泉はたくさん飲むことは好ましくない。

刺激が強いため、水で薄めるなど注意が必要だ。

「花かんざし」では、この貴重な湯を、内風呂・露天風呂・客室露天風呂とも 100%かけ流しにしている。

湯温は、気温によってお湯を絞ったりして調節しているという。

また、湯の花の量によっては、薄い白濁湯になることもある。

ただし、刺激の強い酸性の湯が苦手な人は、湯上り後に真水で洗い流すことをお奨めする。